



施策Ⅱ－４ 資源の有効利用

汚水*の処理過程で発生する汚泥等の下水道資源の有効利用を行います。

【主な取組み】

☞汚泥有効利用施設の導入

⇒汚泥焼却炉の更新にあわせ、温室効果ガス*排出量の削減が期待できる

固形燃料化施設の導入〈令和３年度～令和１０年度〉

ＤＢＯ※方式による官民連携を推進する

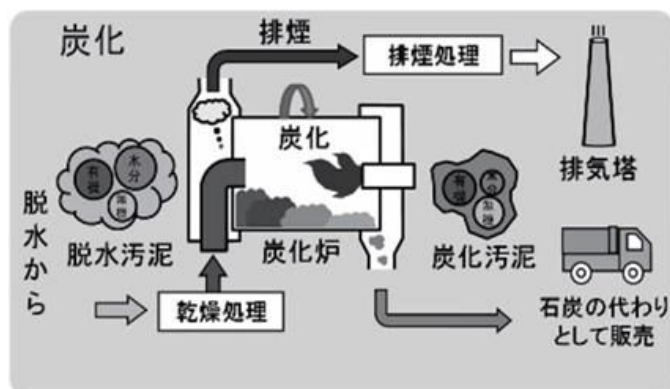
⇒肥料の国産化と安定的な供給、資源循環型社会の構築を目指し、下水汚泥*資源の肥料化に向けた検討を進める

◆汚泥有効利用施設の導入

●南部浄化センターにおいて、老朽化が進んでいる汚泥焼却炉の更新にあわせ、固形燃料化施設を導入します。



汚泥焼却炉



汚泥燃料化施設のイメージ

※DBO（Design Build Operate）



具体的取組

取 組 1	汚泥有効利用施設の導入											
概 要	下水汚泥*を資源利用するため、南部浄化センターにおいて、汚泥有効利用施設を導入します。 固形燃料化施設を導入することなどにより、下水施設から排出される温室効果ガス排出量を、2013（平成25）年度比※ ¹ で16%※ ³ 削減します。 また、肥料の国産化と安定的な供給、資源循環型社会の構築を目指し、下水汚泥資源の肥料利用の大幅な拡大に向けて総力をあげて取り組むことが求められており、下水汚泥の肥料化の可能性について検討を進めます。											
主な事業	焼却炉の更新にあわせた固形燃料化施設の導入 下水汚泥の肥料化に向けた検討											
実施計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
汚泥有効利用施設	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒				
インプット	汚泥有効利用施設の導入						実施					
アウトプット				目標の方向性			現状値（R4）			目標（R14）		
温室効果ガス排出量削減率※ ²				— ※ ³			18%			16%※ ³		
下水道汚泥リサイクル率				増加（↑）			78%			85%		

※1 2013（平成25）年度の温室効果ガス排出量は、32,816 t-CO₂で、容積にすると、東京ドームの13.5杯分に相当

※2 施策Ⅱ－3の取組1、2（P.76）を合わせた削減率

※3 目標（R14）は令和5年度に改訂する「下水道における地球温暖化対策推進計画」に基づき見直します